

CASBEE® 新築[簡易版]

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)文化観光拠点施設	階数	地上3F
建設地	堺区宿院町西2丁1番の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	0人
気候区分		年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年3月 予定	評価の実施日	2013年3月5日
敷地面積	4,134 m ²	作成者	不動剛志
建築面積	1,991 m ²	確認日	
延床面積	3,406 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 400%
②建築物の取組み 83%
③上記+②以外の 82%
④上記+ 82%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項	
総合 開口部を限定し、必要とされる開口部には日射熱遮蔽複層ガラスやダブルスキンカーテンウォールを採用し、熱負荷の低減に努めるとともに、太陽光発電設備、クール&ヒートチューブなど、自然エネルギーを利用する計画としている。 敷地の周囲に植栽帯を設けることで、良好な外部環境を目指すとともに、まちなみに配慮している。	その他 0
Q1 室内環境 カーテンウォールに縦ルーバー及びダブルスキンを採用し、室内への熱の侵入に対して配慮。 床・壁・天井にはほぼ全面的にF☆☆☆☆の材料を採用。	Q2 サービス性能 バリアフリー計画は移動等円滑化基準を満たす。 管理事務室の天井高を2.7m以上確保。 内装計画について、計画段階でのインテリアパース等による検討。
LR1 エネルギー ナイトパーズ、クール&ヒートチューブの採用。 太陽光発電設備の設置。 中央監視設備による電力、水等の消費量の計測。	LR2 資源・マテリアル 節水器具の採用及び擬音装置の設置。 雨水を植栽散水用に利用。 高炉セメント(コンクリート)を基礎部分に採用。 路盤材に再生骨材の利用。受変電の変圧器及びコンデンサにリサイクル材の使用。
	Q3 室外環境(敷地内) 建築基準法の定められた25%増の耐震性能を確保。 主要外装・内装は補修必要間隔の長い材料を採用。 室毎に換気が可能な方式。 節水器具の採用及び、汚水貯留槽を設置。
	LR3 敷地外環境 燃焼機器を設けない計画。 自転車置場、コミュニティサイクルポートを設置する計画。 光害の抑制対策。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	(仮称)文化観光拠点	BEE	BEEランク
	建設地	堺区宿院町西2丁1番の一部	2	A
	主用途/延床面積	事務所 / 3,405.67 m ²		

2. 重点項目への取組み		
重点項目	評価点	取組み度
CO ₂ 削減	4	
省エネ対策	4	
みどり・ヒートアイランド対策	3	
安全快適な暮らし	4	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア				
CO ₂ 削減	評価項目		スコア	評価点
地球温暖化への配慮	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値		3.7	4
省エネ対策	評価項目		スコア	評価点
外皮性能	CASBEE「Q1-2 2.1.3」のスコアによる評価値	建物全体	3.0	4
		住居・宿泊部分	0.0	
建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値		2.1	
自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値		4.5	
設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値		4.4	
効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値		3.5	
水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値		3.8	
みどり・ヒートアイランド対策	評価項目		スコア	評価点
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値		3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値		4.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値		3.0	
安全快適な暮らし	評価項目		スコア	評価点
バリアフリー計画	CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値		4.0	4
耐震・免震	CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値		3.8	
地域性への配慮、快適性の向上	CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値		5.0	
交通負荷抑制	CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値		4.0	

4. その他	
技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項	